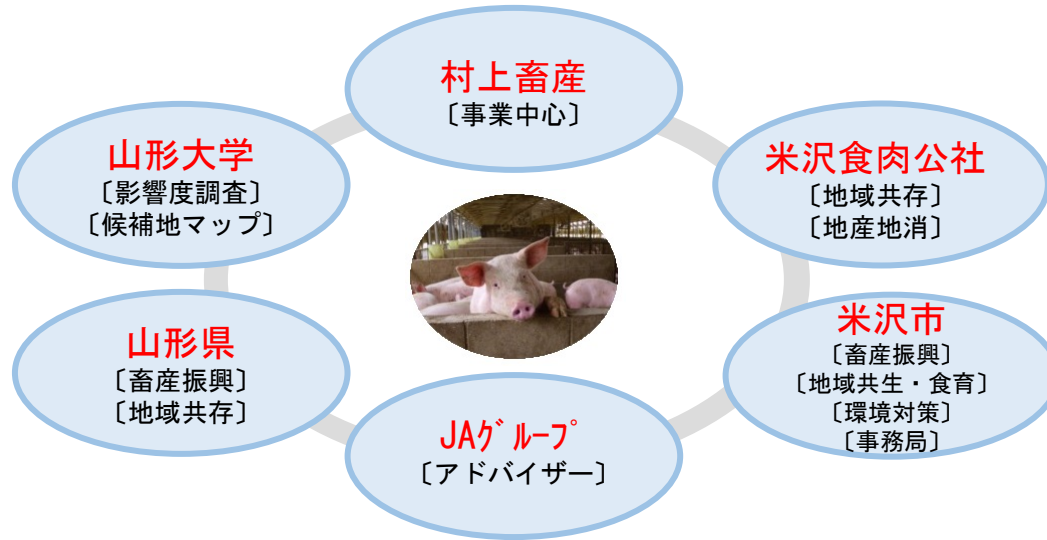


養豚振興と地域共存を目指す畜産クラスター事例③ 山形県

米沢地域共存型養豚協議会

養豚場の悪臭苦情の発生メカニズムを解明し、地域共存の観点からその解決方法を策定する。



(実証内容)

- ・養豚場の悪臭苦情の発生メカニズムを解明し、その影響度の評価方法を確立する。
- ・確立した評価方法を使い米沢市内の養豚適地を探索し、マップ化する。
- ・地域共存と地産池消を進めるための養豚事業モデルを策定する。

(効果)

- ・養豚場の臭気影響度の評価方法が確立でき、悪臭苦情のない新設農場候補地の選定が容易になる。既存農場の臭気対策の目標も設定できるようになる。
- ・地域共存型養豚場モデルを策定することで、地域での理解を深めることができ、ブランド価値が向上する。地産池消が進む。

《3年後目標》

- ・養豚場新設、出荷頭数増
7,200頭/年→15,000頭/年
- ・地産池消向け出荷頭数増
1,700頭/年→7,500頭/年
- ・マップを活用し、米沢牛肥育農場などの新畜産施設を計画立案